

骨隆起について

ご質問ありがとうございました。

外骨症は骨の発育異常で外骨膜性に骨増殖がおこり、下顎小白歯部舌側面に生じる下顎隆起と硬口蓋正中部に生じる口蓋隆起が代表的です。

骨隆起の発生要因については、環境因子、遺伝因子、咬合力、残存歯数、パラファンクションなどが考えられ、その中で環境因子の占める割合が多く、骨にかかる負荷、食生活では硬いものを好む人や口腔環境、年齢にも左右されるという報告があります。人類学的に下顎隆起の発生機序を報告した結果では、現代人において発達した下顎隆起が認められ、現代人の下顎隆起の発達は長寿により顎骨への力のかかる期間が長くなりそれが関与している可能性が示唆されています。また、遺伝要因は詳しくはわかりませんが、両親に骨隆起が見られると、子供にも生じる可能性が高いという報告があります。異常な咬合力、パラファンクション（口腔悪習癖やブラキシズム）など、本来の口腔機能とは違う働きが要因に加えられると考えます¹⁻⁴⁾。

発生機序としては、明らかにはされていませんが、下顎隆起の場合、咬合力が下顎骨に加わると歯根膜を介して根尖部舌側歯槽骨にひずみが生じ、骨の表層側ではマイナス（-）の荷電が生じ、そこに存在する骨膜の骨芽細胞を刺激し骨が添加され隆起が出現することが考えられています⁵⁾。

また、骨隆起の予防対策としては、異常な咬合力を避けるためにマウスピースを装着することで、歯ぎしりや食いしばりによる骨にかかる力を軽減できると考えます。義歯の装着時には削除を考慮しなくてはならない場合がありますが、無症状であれば経過観察となると思います。

今後、何らかの情報がありましたら、お知らせしたいと存じます。

文 献：

- 1) 山本 一彦、馬場 雅渡、北山 若紫、高山 賢一、正田 農夫、杉村 正仁：
当科における顎骨外骨症の臨床的検討. 奈医誌 48: 310-316. 1997
- 2) 中澤 章：骨隆起に学ぶ. The Quintessence 16: 6-12. 1997
- 3) 中村 恵子、鱒見 進一、安東 俊介、竹内 敏洋、久保 雅晴、安元 和雄、金藤 明：
下顎隆起と咬合力、咬合接触面積およびパラファンクションとの関連性について. 九州歯誌
61: 77-81. 2007
- 4) 五十嵐 由里子：下顎隆起の人類学, 日本歯科医師会雑誌 66: 17-26. 2013
- 5) 宮地 建夫：現象の頻度から力を見る. 補綴臨床 31: 167-193. 1998